古代たたらの故郷　湖北 伊吹山山麓
たたらの古代豪族息長氏の里に眠る
「金太郎」伝承を訪ねる

長浜市西黒田地区（旧坂田郡西黒田村）　2018.11.12.

2018. 11. 12.　伊吹の里 野一色周辺からながめる雄大な伊吹山

滋賀県湖北　旧坂田郡　たたらの山　伊吹山西麓のたたら関連地に
「桃太郎」伝承が残ると知って、11月12日米原に帰った仲間を訪ねた後、
伊吹山西麓　湖北のたたらの郷　伊吹 & 桃太郎伝承の残る長浜市西黒田
地区を訪ねました
西黒田地区
旧坂田郡
金太郎伝承の
臥竜山
伊吹山
伊吹の里
伊富岐神社
関ケ原
JR長浜駅
足柄神社
熊岡神
小一条布施町
横山
舟崎
JR坂田駅
JR近江長岡駅
JR米原駅
Image Landsat / Copernicus
Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO
Google Earth

草野川
365
40
米原市
伊吹山
37
長浜
姉川
北陸本線
長浜バイパス
長浜
19
伊吹の里
西黒田地区
旧坂田郡
金太郎伝承の
三島池
365
365
天野川
東海道新幹
土川
2
8
21
滋賀県
SHIGA
岐阜県
福井県
伊吹山
金太郎伝承の
旧坂田郡西黒田
高島市
琵琶湖
長浜市
大津市
甲良町
多賀町
近江八幡市
東近江市
守山市
野洲市
栗東市
湖南市
甲賀市
日野町
京都府
三重県
垂
名

古代の鉄の王国「近江」
琵琶湖取り囲む山々の山麓は たたら製鉄を育んだ和鉄の故郷

琵琶湖周辺の山々には鉄鉱石があり、その山麓には点々と古代から製鉄遺跡
そして湖北から北陸にかけては古代の鉄の豪族息長氏の本拠地である
そんな湖北の和鉄の故郷　伊吹山山麓　旧坂田郡西黒田は「坂田の金時・金太郎」の伝承地
たたらの里で生まれ、周辺の山で育った金太郎　その象徴が赤い肌・鉞・丸金の腹掛けだと。
金太郎の伝承地はいくつかあるが、「坂田」の地での伝承を持つのはこの伊吹山麓のみという。

金太郎伝承が伊吹山山麓のたたらの里にあると初めて知りました。
久しぶりに知る各地に残る「桃太郎」「羽衣」ほかの昔話とたたらの関係。
湖北へは何度も出かけ、伊吹山登山や湖岸沿いの長浜へは何度も行ったことあり、また関ヶ原を東に越えた美濃側の製鉄遺跡関連地垂井鞴祭りの南宮神社や美濃赤坂金生山へも出かけましたが、伊吹の里を歩いたことなし。
11月12日
伊吹山麓に帰ったという仲間の顔を見がてら、金太郎伝承の里を歩いてきました。

謎の多い古代豪族 息長氏 と 坂田の金時の伝承地　概略

長浜市旧坂田郡黒田地区

古代東山道,北陸道の要衝であり,琵琶湖に朝妻港をもつ交通の拠点であった伊吹山の西麓　近江国坂田郡息吹(現,坂田郡米原町と長浜市の一部)を本拠とした古代　鉄の王国近江の大豪族。
古事記ほかの伝承によれば、古墳時代の王族 意富富杼(おほほど)王の後裔と伝えられ、息長帯日売命(神功皇后)や息長真若中比売(応神天皇妃)など息長の氏名を冠する皇妃を輩出し,大王家との姻戚関係を伝える。

息長の名義発祥の由来は、
新羅から渡来した天之日矛（あめのひぼこ）の末裔の鍛冶集団で、上古から持つ製鉄・鍛冶に関する技術から生じたとする説や本拠地の伊吹山山麓荒ぶる山「息吹」に発するといわれる。
この坂田郡天野川流域には息吹氏と関係すると考えられる5世紀末～6世紀後半の息吹古墳群がある。
また、伊吹の里の北には　敏達天皇の皇后「息長広姫」の御陵息長陵とされる村居田古墳。金太郎の里臥竜山の山裾　長浜市旧坂田郡黒田地区にも布施町の布施古墳ほかいくつかの古墳があり、この地に勢力のあった生息長氏との関係が見られる。
金太郎の出生地伝承をこんな息長氏につながる鍛冶屋の子として、
息長氏の本拠地　伊吹山西麓　臥竜山の山裾ですくすくと育ったと伝えている。

伊吹山の山麓　長浜市西黒田に残る坂田の金時伝承

滋賀銀行　季刊情報文化誌「湖」2015秋号　“金太郎”　坂田の金時は旧坂田郡の人だった?
https://www.keibun.co.jp/saveimg/mizuumi/0000000026/pdf_sub_208_20150925103446.pdf

平安時代中期　近江国坂田郡布施郷(現長浜市西黒田布施町)に本拠地を持つ古代豪族息長氏一族に生まれた。
布施町に隣り合う小一条町に「番所・ばんふところ」の地名が残るが、これは「乳母が懐」と言われ、この辺りで乳母に育てられたとの言い伝えがある。　今もお地蔵さんが祀られ、授乳地蔵として信仰を集めている。
金太郎は熊岡山(熊岡神社)や足柄山(列見寺山)で熊と相撲を取ったり、舟崎の鯉ケ池で鯉に乗ったり、海童ぶりを発揮。
青年になるとこの地で盛んだった鍛冶の仕事に就いた。
金太郎のトレードマーク「赤い肌」「鉞」「金の字の腹掛け」は鍛冶の作業を表すという。
そして、20歳となった金太郎に転機が訪れる。天延4年(976)、旧暦3月21日、上総守の任期を終え、黒田海道を上京中の源頼光が足柄山にさしかかったとき、金太郎は頼光の目にとまり家来となった。
上京後、金太郎は名を坂田金時と改め、頼光のもと様々な手柄をたててゆく。
　正暦5年(994)、金太郎が住んでいた村の人々を苦しめている伊吹山の山賊(酒呑童子・伊吹童子)をついに退治し、渡辺綱、卜部季武、碓井貞光とともに頼光の四天王と称されるまでになる。(大江山・伊吹山の鬼退治伝承の一つ)

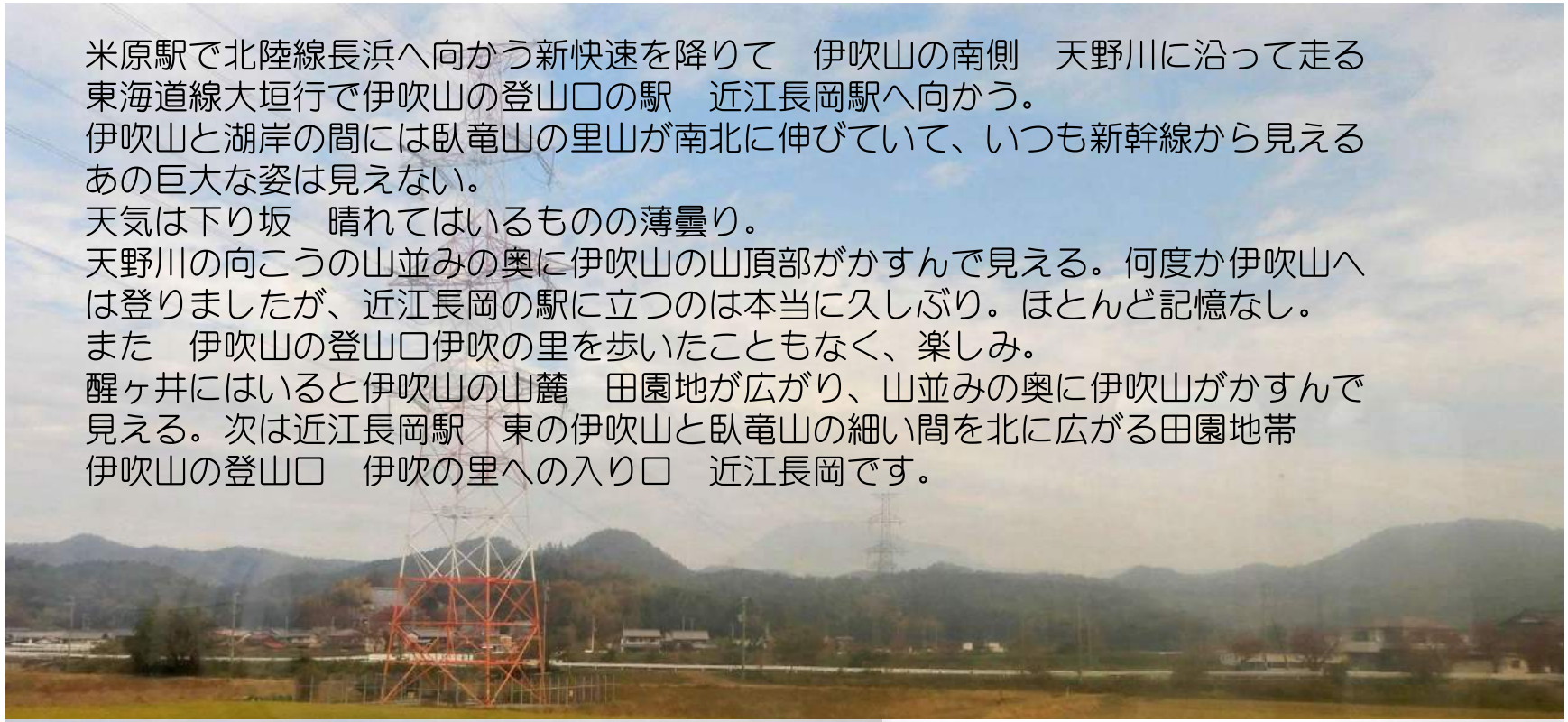
なお、坂田の金時の鬼退治伝承の多くは、大江山伝説の形をとっているが、伊吹山山麓では、上記のごとく伊吹山の山賊(酒呑童子・伊吹童子)退治の形でも伝承されている

また、この布施町から小一条町にかけては「タタレン」「穴伏」「金神山」「焼尾」といったたたら製鉄に関係した地名が残り、
鎌倉時代　布施町鍛冶屋場庄司には名剣を打つ鍛冶屋が軒を連ねていたという。

井吹の里 &「金太郎」伝承地 walk ルート図

湖岸沿いに広がる長浜市。当初「なんで 湖岸の長浜に伊吹山のたたらの関連地の金太郎伝承があるのだ」と頭が混乱していました。
長浜市の東の境界は臥竜山「横山」の丘が南北に走り、その後ろに伊吹山がそびえる米原市伊吹の里。湖岸の長浜からは南北に長く寝そべる臥竜山(横山) の丘が壁になって、どでかい伊吹山の山体はよく見えなない。
この丘周辺が金太郎伝承の西黒田
丘を東に越えればすぐ正面に伊吹山が姿を現す。
東西を山に挟まれた田園が伊吹の里である。

米原駅で北陸線長浜へ向かう新快速を降りて　伊吹山の南側　天野川に沿って走る
東海道線大垣行で伊吹山の登山口の駅　近江長岡駅へ向かう。
伊吹山と湖岸の間には臥竜山の里山が南北に伸びていて、いつも新幹線から見える
あの巨大な姿は見えない。
天気は下り坂　晴れてはいるものの薄曇り。
天野川の向こうの山並みの奥に伊吹山の山頂部がかすんで見える。何度か伊吹山へ
は登りましたが、近江長岡の駅に立つのは本当に久しぶり。ほとんど記憶なし。
また　伊吹山の登山口伊吹の里を歩いたこともなく、楽しみ。
醒ヶ井にはいると伊吹山の山麓　田園地が広がり、山並みの奥に伊吹山がかすんで
見える。次は近江長岡駅　東の伊吹山と臥竜山の細い間を北に広がる田園地帯
伊吹山の登山口　伊吹の里への入り口　近江長岡です。



20018. 11. 12.　東海道線　米原市醒ヶ井周辺の車窓からながめる伊吹山

2018. 11. 12. 10:51　近江長岡駅着
駅の背後に巨大な覆いかぶさるがごとく伊吹山が見える

2018. 11. 12. 10:51　近江長岡駅着
駅の背後に巨大な覆いかぶさるがごとく伊吹山が見える
視野の中に入りきらぬドデカイ山
今日はさえぎるもののない田園が広がる伊吹の里の向こうに
伊吹山全体をみるのが楽しみ

本当に大きな山である　今日は伊吹の里から田園の向こうに
大きく広がる伊吹山全体をまじかでみるのが楽しみ

近江長岡駅前にある米原観光マップ
シーズン外れとあって　ひっそりとしたもの　伊吹山の山裾に広がる
伊吹の里を通って長浜へ抜けるバスがあり、それに乗って伊吹の里へ
療養中の仲間を見舞って、午後　walkingをはじめる。

2018. 11. 12.　伊吹の田園からながめる伊吹山

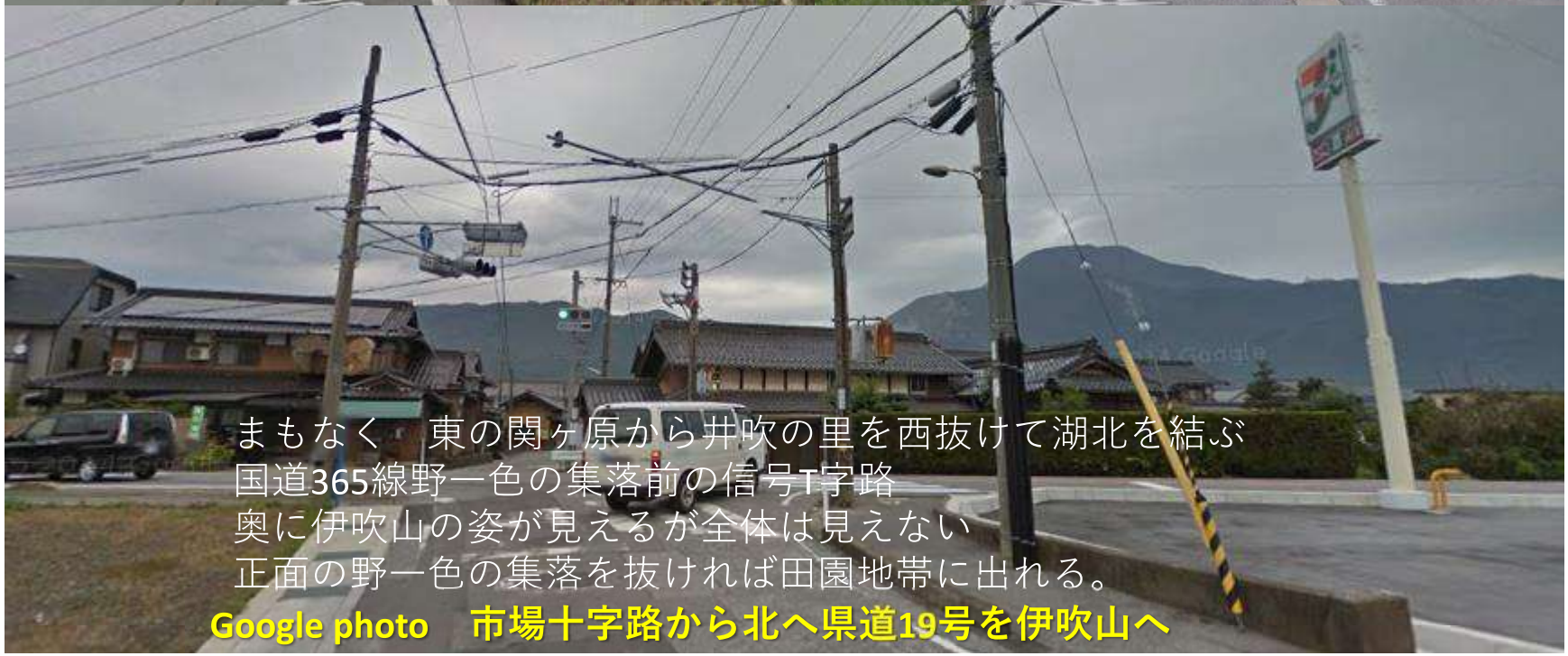
バスが近江長岡駅から街中を抜け、田園に入ると車窓からは雄大な伊吹山が眺められました。手前には収穫を終わった広大な田園地帯がひろがり、伊吹山のめぐみが感じられる素晴らしい景色です。　午後の里歩きが楽しみ。

伊吹の里 MAP
敏達天皇皇后廣姫
息長陵(村居田古墳)
姉川
三菱ケミカル
(株)滋賀事業所
井之口
道の駅 伊吹
の里旬彩の森
伊吹の里
551
40
石田山公園
野一色
19
米原市役所
石田
観音坂トンネル
朝日
市場
米原市
春照
伊吹高校
509
臥竜山
248
鳥羽上
三友エレクトリック(株)
旧坂田郡西黒田地区
金太郎の伝承地
244
びわこ産業(株)
東海道新幹線
米原市 山東庁舎
東海道本線
近江長岡駅
米原市立山東小
Google

伊吹・金太郎の伝承地walkのスタートは伊吹の里の真ん中　伊吹高校前のバス停から。　12:15
すぐ横が市場の十字路　西へ行けば、臥竜山をとんねるでぬけて、金太郎の伝承地長浜の西黒田地区　右行けば南東の近江長岡へ。また南へまっすぐ下れば醒ヶ井。北へ取ると田園地帯の中に小さな集落が点在する伊吹山の山裾。その山裾を伊吹山から流れ出た北へ姉川が方向を北にとって流れ下る伊吹山麓。
まずは　田園が広がる伊吹の里の背後にそびえたつ伊吹山の姿をしっかり眼に収め、伊吹山麓から引き返して、長浜金太郎の里へ向かう。
現地に来て初めて知る長浜市と米原市の位置関係。　みんな湖北なんだとびっくりしました。長浜の街の重要性も再認識。
もう一つ、問題発生。カメラが故障。撮影がストップ。
仕方なくスマホで撮影。詳細はあとでgoogle earthのストリートビュで保管することにしましたので、記録もこの写真が混在しています。

1. 伊吹の里 walk　市場から北の伊吹山の山裾　井之口・伊吹へ

伊吹高校前すぐ横の市場十字路から県道19号を北へ
伊吹山の山裾　地図でみた井之口集落へ向かう
はやく　伊吹山全体が見える田園地帯へと 2018.11.12. 12:15



まもなく　東の関ヶ原から井吹の里を西抜けて湖北を結ぶ
国道365線野一色の集落前の信号T字路
奥に伊吹山の姿が見えるが全体は見えない
正面の野一色の集落を抜ければ田園地帯に出れる。

Google photo　市場十字路から北へ県道19号を伊吹山へ

野一色の小さな集落を抜けると収穫を終え、ひこばえで黄色くなった田園が広がり、
その背後、壁のようにみえていた山並みの中央に伊吹山がどっしりと座っていました。

Google photo 野一色の邑中をまっすぐ伊吹山へ向かう

2018. 11. 12.　伊吹の里 野一色周辺からながめる雄大な伊吹山　12:28

伊吹山の北の肩　石灰石採取場

伊吹山登山口上野からの尾根筋

2018. 11. 12.　伊吹の里 野一色周辺からながめる雄大な伊吹山

Google photo　すぐ東伊吹山の山裾を北に姉川が流れる井之口の集落
邑中には水路が巡り、美しい邑中でした

2018. 11. 12.　伊吹の里　井之口 姉川の土手から伊吹山を眺める

2018. 11. 12.　井之口集落越しに眺める南北に長く延びる臥竜山の丘
丘の向こう側が、金太郎伝承の里　長浜市西黒田地区　すぐそこです
2018. 11. 12.　12:44.　伊吹の里 姉川の土手より

伊吹の里の豊さの象徴か？ 伊吹山の水と里全体に張り巡らされた分水

2018. 11. 12. 12:46　姉川上流側の小田分水からの水をさらに分ける　井之口分水

姉川に沿って山裾を南へ　伊吹山から流れ出た姉川が北西へ流れを変える
伊吹の十字路　　ここから正確ではないが南西へ米原市場へ戻る　13:15
北へ甲津原　南方　関ヶ原へ　北東方　伊吹山登山口・スキー場の十字路

2018. 11. 12.　南西へ米原市場へ戻る途中　小田の邑中を下った所に小田分水
ここも水量豊か　また通過した小田の邑中も本当にきれいな道筋でした

県道19と509の十字路市場　　２０１８．11．12．　13:45
ここから西へ509号に入り、右にみえている臥竜山のトンネルを
ぬけて、金太郎伝承の里　長浜市西黒田地区へ向かう

20018.11.12.　県道509　朝日集落　八幡神社前
いよいよトンネルで臥竜山の丘を通りぬけ、金太郎の里へ

2. 臥竜山の山裾　長浜市西黒田地区　金太郎の里walk

観音坂トンネルは昭和8年に開通したトンネルで長浜市と今の米原市を結ぶ主要道路として利用されてきました。
かつては非常に狭いトンネルでまたこのトンネル周辺は心霊スポットして有名だったようですが、　2016年3月26日に新観音坂トンネルが開通。
すっきりとした峠道　長浜から伊吹へのルートが非常に便利に
2018.11.12.14:01　　。

坂田の金時の伝承地 臥竜山西麓　長浜市旧坂田郡黒田地区

●臥竜山　琵琶湖と伊吹山の間を南北に竜が伏せたように横たわる里山
この西麓の山際に沿って金太郎伝承の西黒田地区の集落がある。

●熊岡山(熊岡神社)・足柄山(列見寺山)・舟崎鯉が池
南北に横たわる臥竜山の麓　金太郎の子供のころの遊び場

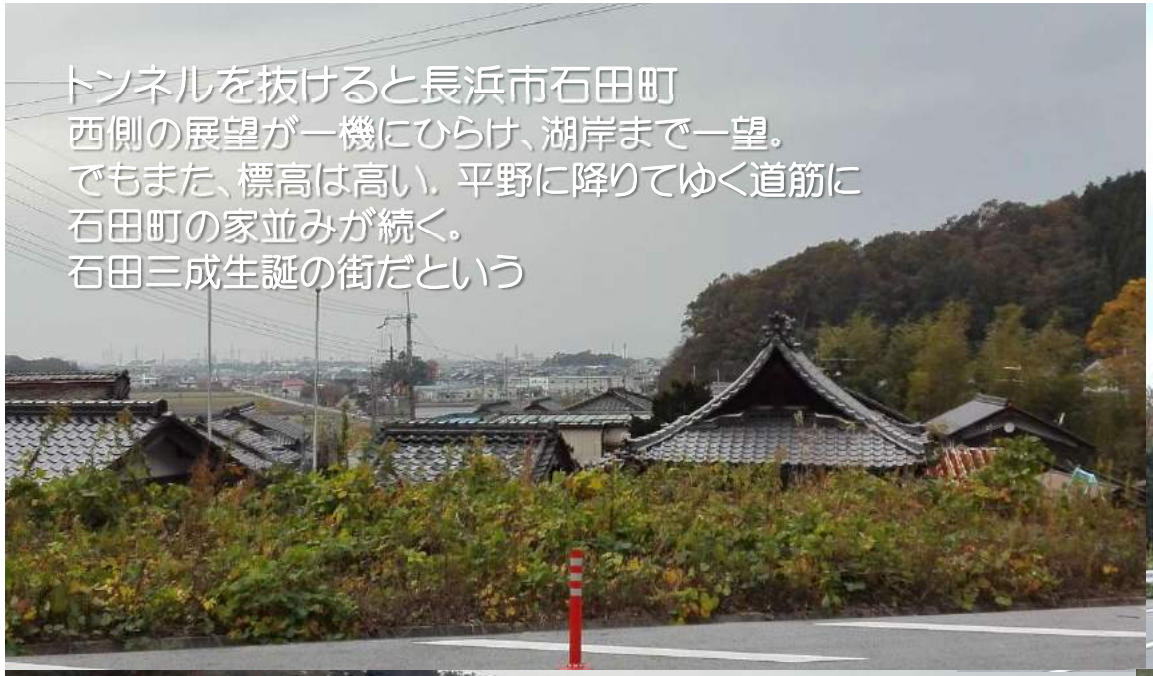
●長浜市布施町　出生地

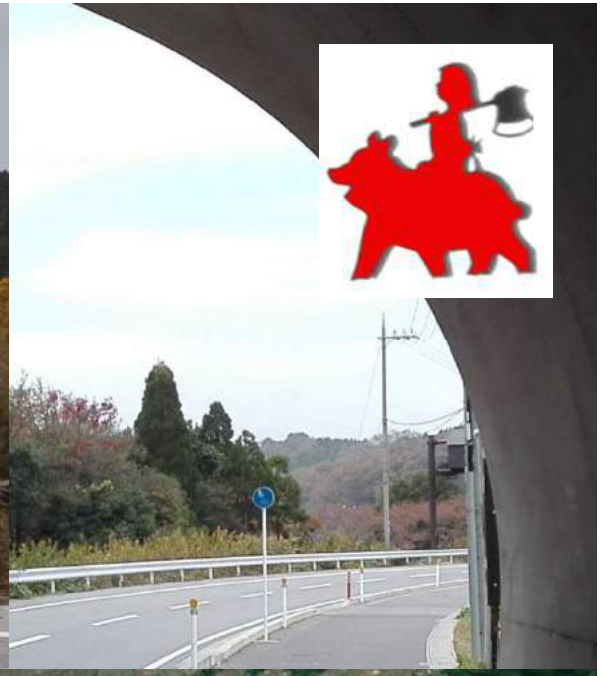
●長浜市小一条番所　乳母に金時が育てられた場所

● たたら関連の地名が残る布施町・小一条町
「たたれん」「穴伏」「金神山」「焼尾」などたたら関連地名が残る

桃太郎伝承の
長浜市西黒田
MAP
近江長岡
伊吹の里
野一色
市場
朝日
観音坂
トンネル
643×470
石田町
八条山公園
八条町
足柄神社
本庄町
常宮町
熊岡神社
名越町
布施町
小三条町
40
248
509
19
243

トンネルをぬけた石田町から南へ臥竜山の丘の山裾に沿って
点々と集落が続く。今はもう集落というより街並み。
ここが金太郎伝承の残る長浜市西黒田地区。　古代の鉄の豪族
息長氏の本拠地であり、たたら製鉄(古代鍛冶)関係の伝承が残る。
金太郎伝承もこの山裾の南　布施町の息長氏一族の鍛冶屋の子
として誕生し、この丘を遊び場として育ったという。
地名や古墳がいくつもあり、息長氏の鍛冶関係の伝承として
残っているが、その痕跡はほとんどみあたらぬ。
でも　古代鉄の王国の鉄のやま伊吹山のすぐ山裾　金太郎伝承
とたたら伝承の結びつきには、興味津々である。


トンネルを抜けると長浜市石田町
西側の展望が一機にひらけ、湖岸まで一望。
でもまた、標高は高い．平野に降りてゆく道筋に
石田町の家並みが続く。
石田三成生誕の街だという



姉川
石田町
観音寺トンネル
朝日
八条町
足柄神社
常喜町
熊岡神社
臥竜山
長浜市
米原市
布施町
小一条
舟崎
横山

臥竜山の山裾　西へ張り出した枝尾根に沿って石田町の家並み
下の写真に見える森が石田三成生誕の地といい、臥竜山に沿って
田園と小さな集落が点々と続く。

振り返った石田町の家並みの向こうに伊吹山が顔を出していました

臥竜山の山裾　張り出した枝尾根をぬうように西黒田地区の集落をつなぐ道が南へ続き、石田町の次の集落が八条町。集落の入口には「金太郎の里西黒田　ここは八条町」との案内板があり、東西に横たわる臥竜山の丘越しに伊吹山の頂上部が見えている。

北東側　石田町の向こう丘越しに伊吹山が見えている

八条町の入口周辺から眺める南北に横たわる臥竜山の丘　2018.11.12.　14:35

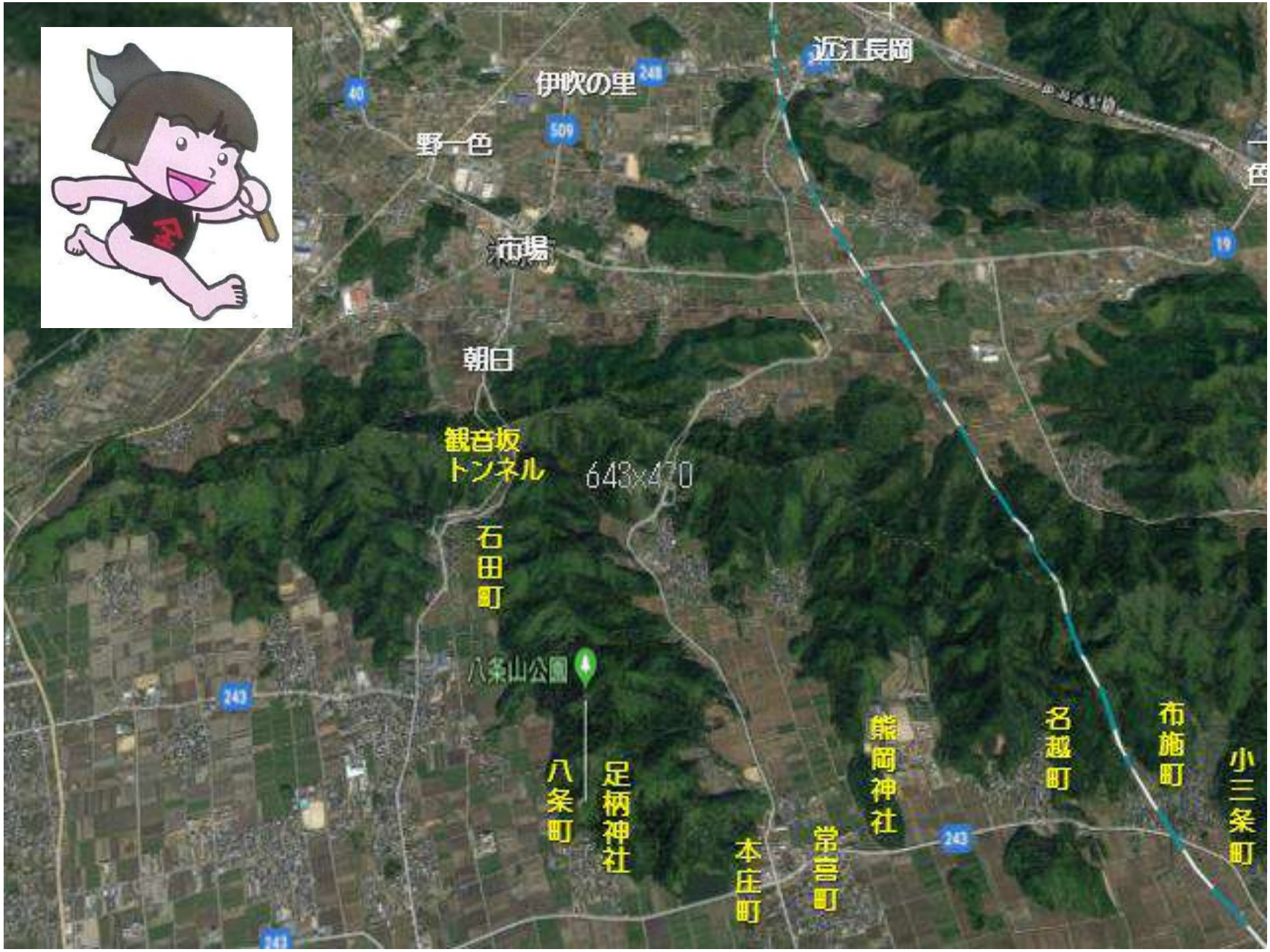
南西側　八条町の後　西に張り出した丘の山裾の端に足柄神社がある

南へ八条町の街並みを抜けた山裾の先端に足柄神社　2018. 11. 12.　14:50
金太郎が幼少の頃　金太郎が遊んだのは　丘からいくつも張り出した枝尾根か??

常喜溜　　八条町と本庄町の境　ここで南北に走る県道２４３号に出た
石田町から西へ張り出した枝尾根の先端部で

南北に寝そべる延臥竜山からまるで竜の足のごとく幾つもだ尾根が西へはりだし、
その先端部をつないで　長浜の東部を南へ国道243号が走る西黒田地区
街並みの向こう　先端部に熊岡神社がある足柄山といわれる次の枝尾根が見えてい
2018. 11. 12.　国道243沿い 西黒田地区 本庄新町周辺

2018. 11. 12. 国道243沿い西黒田地区本庄新町の隣常喜町の西黒田まちづくりセンター
臥竜山の山裾に沿って点々と集落が並ぶ西黒田地区　このほぼ中央が常喜町
ここにも東の伊吹の里から長浜へトンネルで臥竜山を抜ける道がある


近江長岡
伊吹の里
248
40
509
野一色
市場
19
朝日
観音坂
トンネル
643×470
石田町
八条山公園
243
八条町
足柄神社
本庄町
常宮町
熊岡神社
名越町
布施町
小三条町
243
243

Google photo 熊岡神社

常喜町から南に見えていた丘の先端に金太郎伝承の熊岡神社
この背後の丘が金太郎が幼少の頃遊んだ足柄山?

2018. 11. 12.　15:12　足柄山? の山裾　熊岡神社

2018. 11. 12.　臥竜山の枝尾根が張り出した裾　熊岡神社前　国道243より

2018. 11. 12.　臥竜山の枝尾根が張り出した山裾熊岡神社前　国道243より

2018. 11. 12. 熊岡山の南　次の枝尾根の手前にきれいな銀杏並木が見える

2018. 11. 12.　長浜農業高校入口の素晴らしい銀杏並木

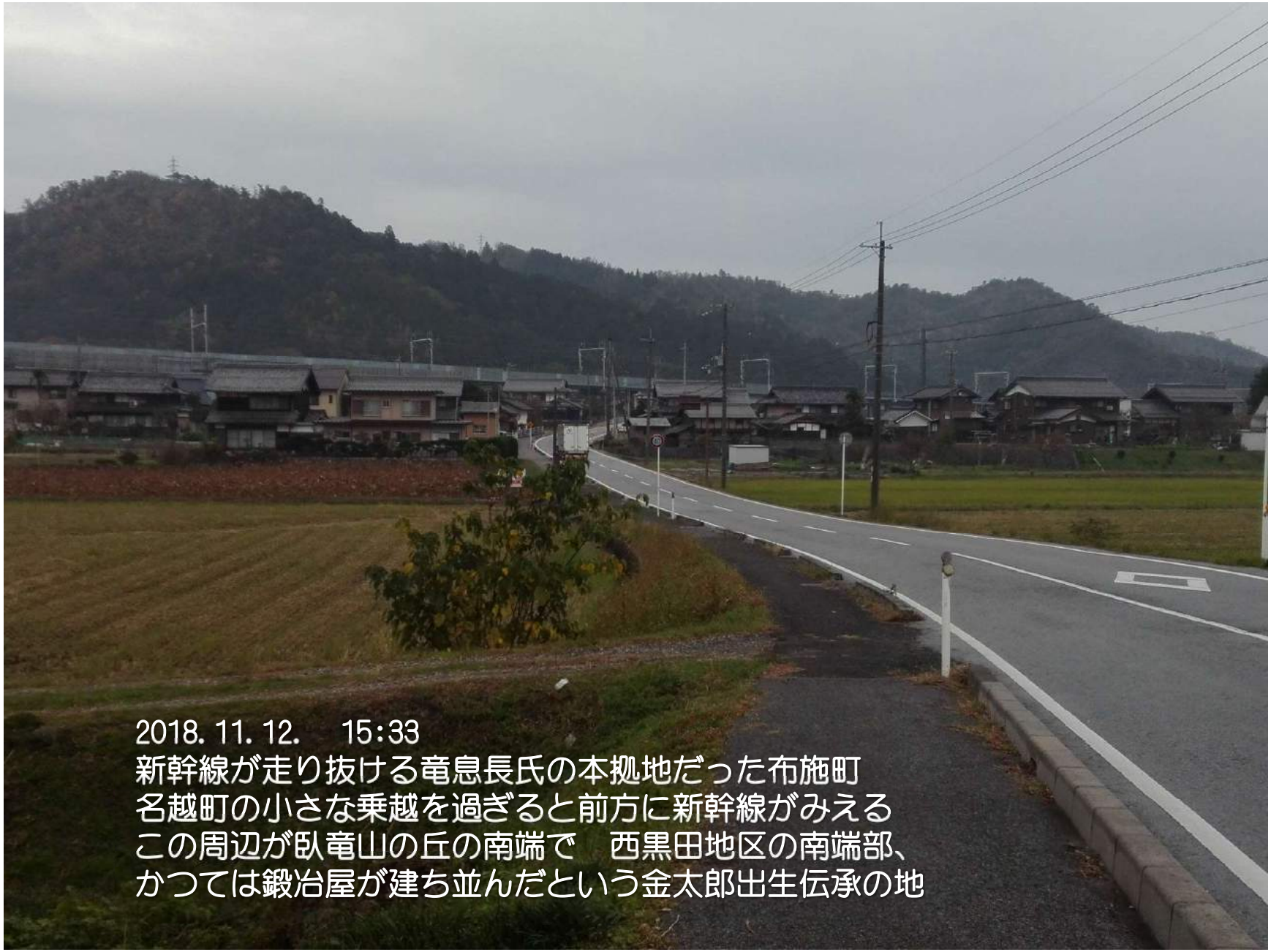
あいにく霧雨になりましたが、背後に伊吹山がけぶり、素晴らしい伊吹山麓の秋景色

2018. 11. 12.　素晴らしい伊吹山麓の秋景色　　長浜農業高校 銀杏並木

2018. 11. 12.　素晴らしい伊吹山麓の秋景色　長浜農業高校銀杏並木

2018. 11. 12.　長浜農業高校　銀杏並木を前に　金太郎が熊と遊んだという山??

2018. 11. 12.　張り出した小さな丘の乗越　名越町


2018. 11. 12.　15:33
新幹線が走り抜ける竜息長氏の本拠地だった布施町
名越町の小さな乗越を過ぎると前方に新幹線がみえる
この周辺が臥竜山の丘の南端で　西黒田地区の南端部、
かつては鍛冶屋が建ち並んだという金太郎出生伝承の地

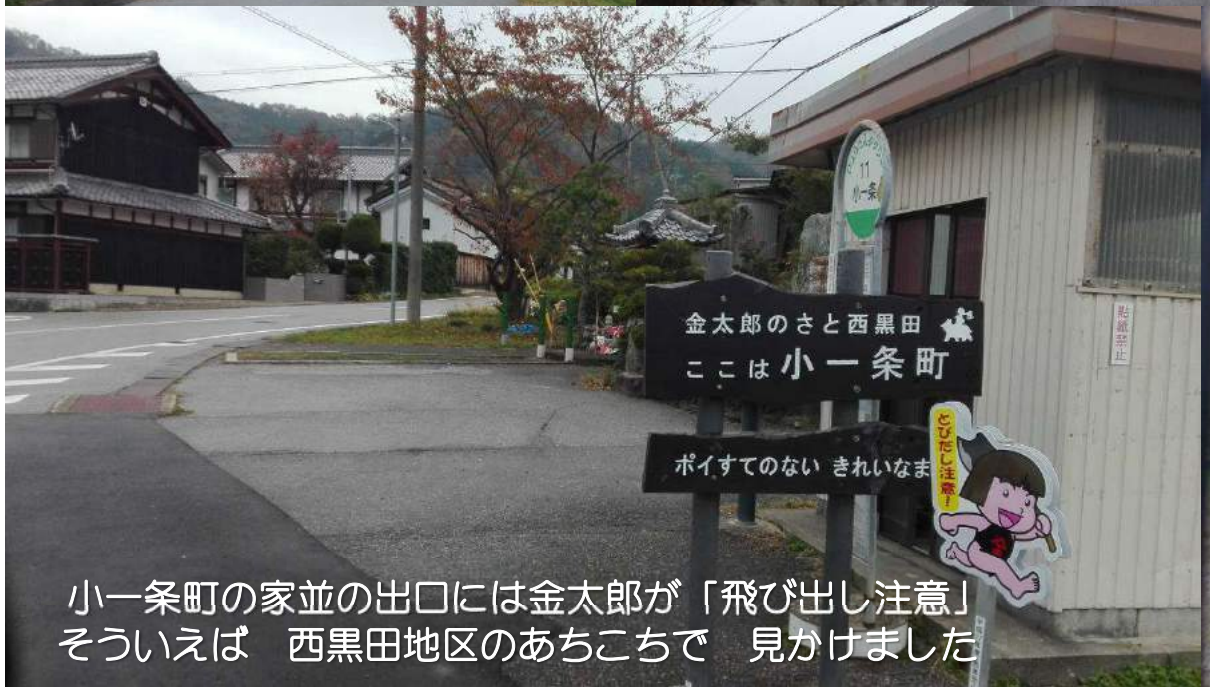
2018. 11. 12.　臥竜山の丘を背に広がる息長氏の本拠地
金太郎出生の地　布施町　鎌倉時代には鍛冶屋が建ち並んだという

2018. 11. 12.　布施町の入口にある布施古墳

2018. 11. 12.　臥竜山の丘の端　北陸道の高架が見える家並み
布施町の隣の小一条町

布施町の隣　小一条町 Map

2018. 11. 12.　国道からはなれ、小一条の家並にはいる



小一条町の家並の出口には金太郎が「飛び出し注意」
そういえば　西黒田地区のあちこちで　見かけました

小一条の街並みから国道に出ると、今歩いてきた臥竜山沿いの西黒田地区そ
してその背後に伊吹山が一望。いよいよ　西黒田地区walkもおわり。
この北陸道の高架のすぐ横の山裾に
小一条番所「金太郎が乳母に育てられた所」の案内板がありました。

高架のすぐ横の山裾に　「小一条番所　金太郎が母に育てられた所」の案内板.

2018. 11. 12.　16:00　金太郎伝承の地　walkが終了

2018. 11. 12.　小一条番所から眺める臥竜山の山並みとその上に見る伊吹山

Walkを終わって、帰路につく。
広い国道バスか何かあるだろうと思いましたが、歩くしか手段なし。
米原駅はまだまだ遠いし、最短は北陸線坂田駅へ行くのが一番だと聞く。　そうか　ここは旧坂田郡　坂田の金時の里
日が傾いてきましたが、街中を約1時間ぶらぶら歩いて坂田駅へ。
すぐ湖岸と思ってもいましたが、これもはずれ。意外でした。
でも　北陸道をくくり、新幹線がもうスピードで駆け抜けてゆく。
北陸と湖北を結ぶ幹線国道8号線　長浜・米原は交通の要衝。
次々と新しい街が生まれているのを知りました。
もう真っ暗になりかけた5時過ぎ
坂田駅にたどり着き、新快速に飛び乗って　神戸に帰りました。
時代が大きく動いていると知った坂田の街でもありました。

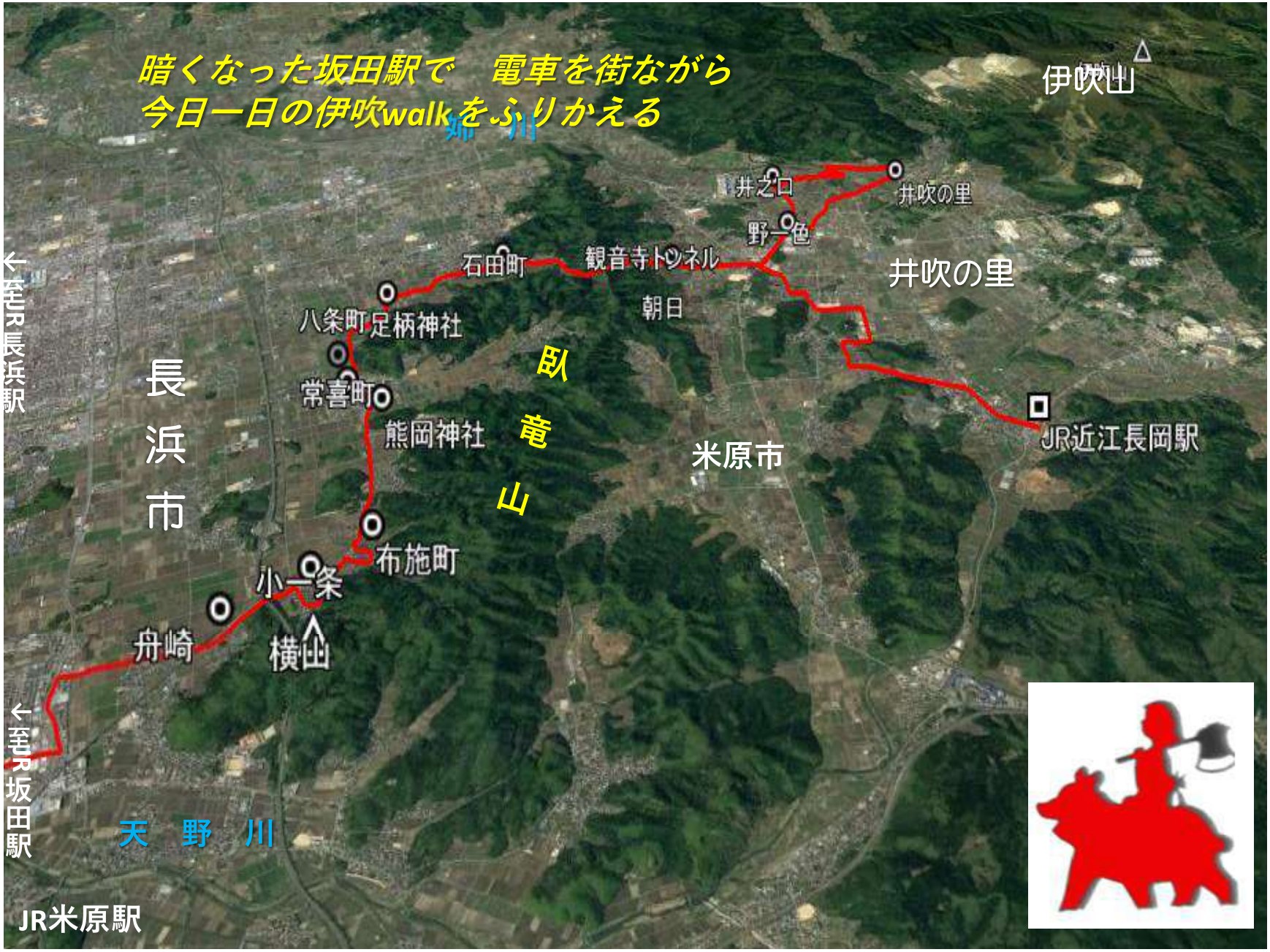
七尾山
伊吹山
米原市役所
米原市
八条山公園
市立長浜病院
米原市 山東庁舎
近江長岡
東海道新幹線
田村
★現在地　長浜市小一条町
東海道本線
柏原
坂田
Google

Google photo　小一条町から　新幹線をくぐり、国道243号線を
ひたすら湖岸近く西の坂田駅へ

Google photo　国道8号線の幹線へ出て、やっと一息　でもやっぱり歩くしかなし

Google photo　国道8号線を渡りほぼ中間　再度国道243を西へ
約1時間ほどで坂田にたどり着きました

2018. 11. 12.　小一条番所から眺める臥竜山の山並みとその上に浮かぶ伊吹山
長浜西黒田地区は古くから密接に結びついていると感じる風景です

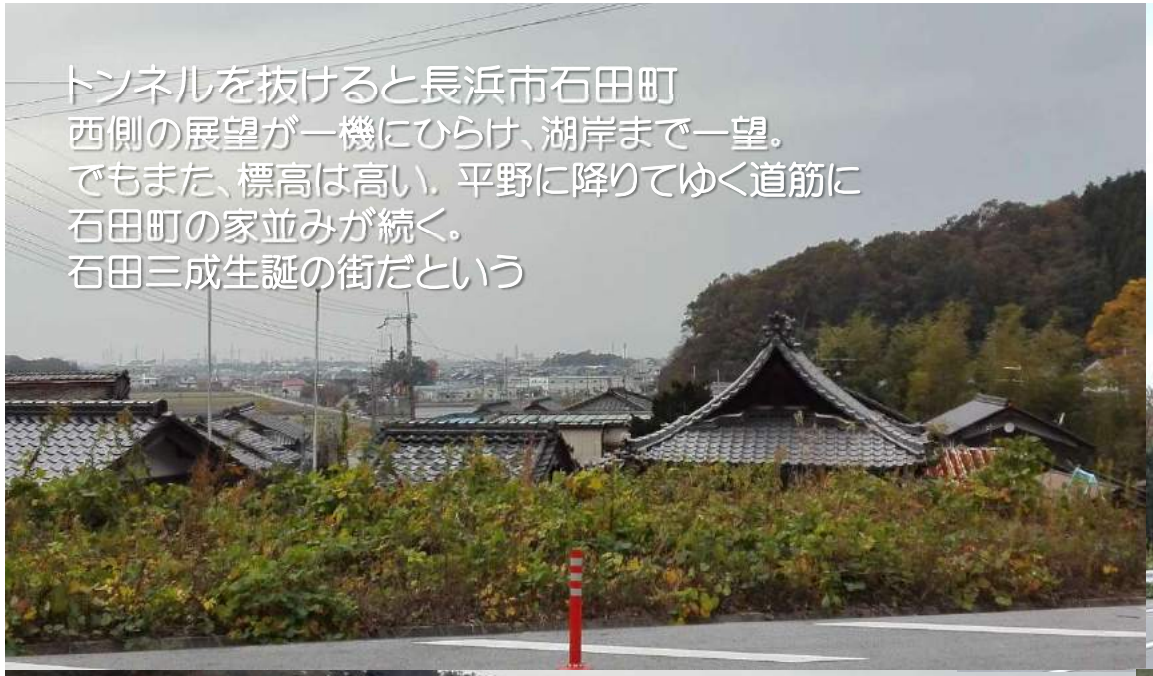

暗くなった坂田駅で　電車を街ながら
今日一日の伊吹walkをふりかえる
伊吹山
姉　川
井之口
井吹の里
野一色
石田町
観音寺トンネル
井吹の里
朝日
八条町
足柄神社
臥
竜
山
長
浜
市
常喜町
熊岡神社
米原市
JR近江長岡駅
布施町
小一条
舟崎
横山
←至JR長浜駅
←至JR坂田駅
天　野　川
JR米原駅

2018. 11. 12.　伊吹の里 野一色周辺からながめる雄大な伊吹山

Google photo　すぐ東伊吹山の山裾を北に姉川が流れる井之口の集落
邑中には水路が巡り、美しい邑中でした

2018. 11. 12. 12:46　姉川上流側の小田分水からの水をさらに分ける　井之口分水

2018. 11. 12.　南西へ米原市場へ戻る途中　小田の邑中を下った所に小田分水
ここも水量豊か　また通過した小田の邑中も本当にきれいな道筋でした


トンネルを抜けると長浜市石田町
西側の展望が一機にひらけ、湖岸まで一望。
でもまた、標高は高い．平野に降りてゆく道筋に
石田町の家並みが続く。
石田三成生誕の街だという

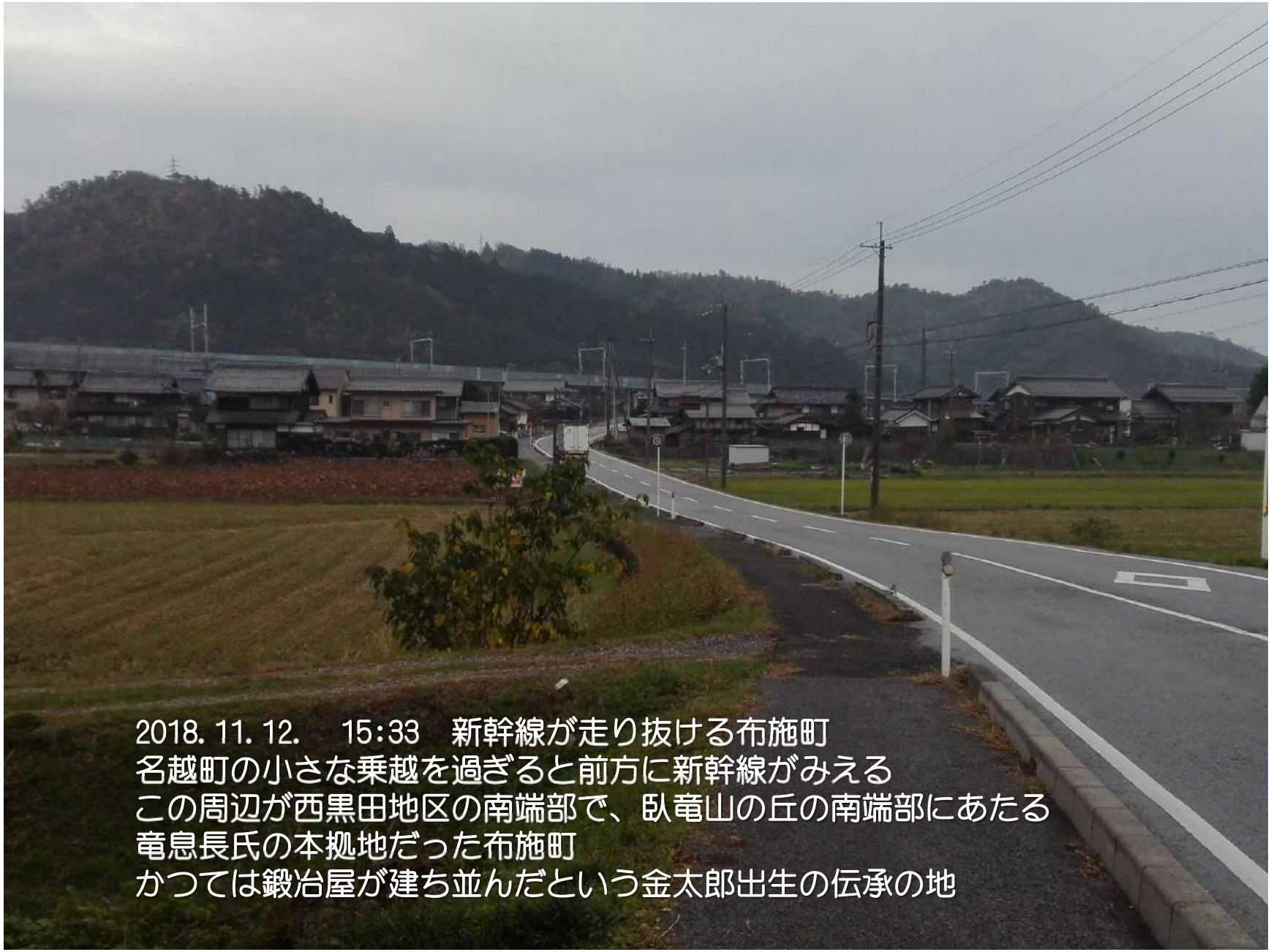
姉川
石田町
観音寺トンネル
朝日
八条町
足柄神社
常喜町
熊岡神社
臥竜山
長浜市
米原市
布施町
小一条
舟崎
横山

南へ八条町の街並みを抜けた山裾の先端に足柄神社　2018. 11. 12.　14:50
金太郎が幼少の頃　金太郎が遊んだのは　丘からいくつも張り出した枝尾根か??

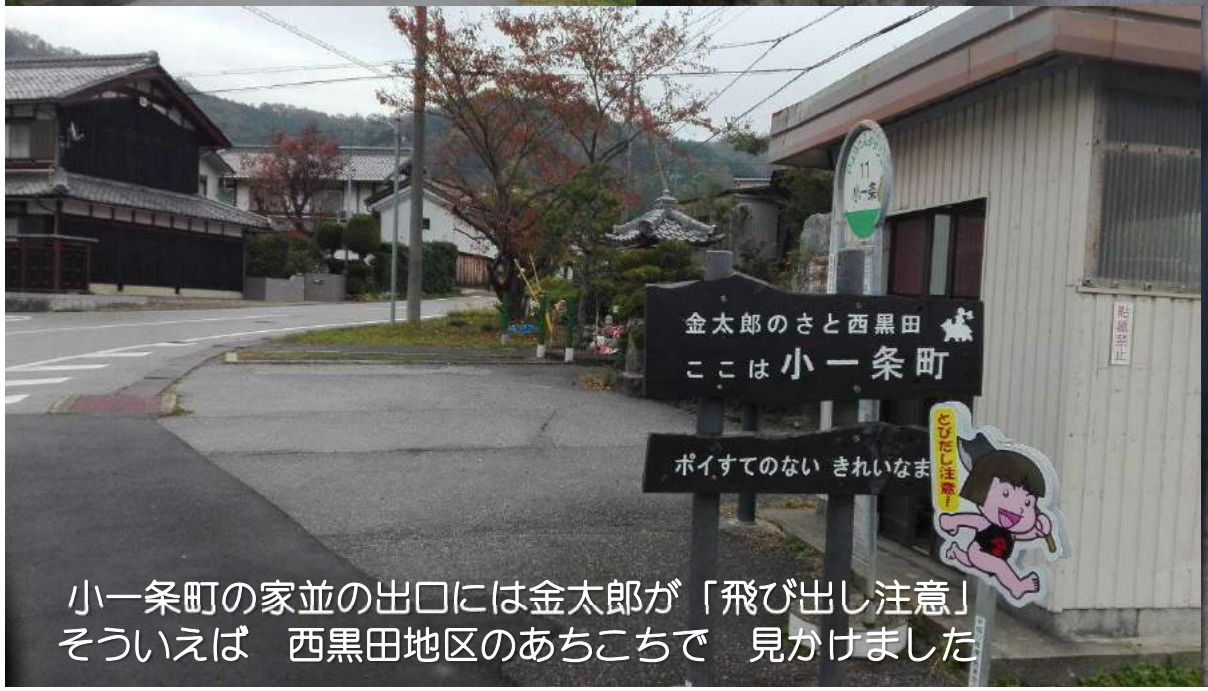
2018. 11. 12.　素晴らしい伊吹山麓の秋景色　長浜農業高校銀杏並木

2018. 11. 12.　素晴らしい伊吹山麓の秋景色　　長浜農業高校 銀杏並木

2018. 11. 12.　張り出した小さな丘の乗越で　名越町


2018. 11. 12.　15:33　新幹線が走り抜ける布施町
名越町の小さな乗越を過ぎると前方に新幹線がみえる
この周辺が西黒田地区の南端部で、臥竜山の丘の南端部にあたる
竜息長氏の本拠地だった布施町
かつては鍛冶屋が建ち並んだという金太郎出生の伝承の地

2018. 11. 12.　臥竜山の丘を背に広がる布施町
息長氏の本拠地　金太郎出生の地
鎌倉時代には鍛冶屋が立ち並んだという



小一条町の家並の出口には金太郎が「飛び出し注意」
そういえば　西黒田地区のあちこちで　見かけました

小一条の家並みから国道に出ると、
今歩いてきた臥竜山沿いの西黒田地区そしてその背後に伊吹山が一望。
いよいよ　西黒田地区walkもおわり。

2018. 11. 12.　小一条番所から眺める臥竜山の山並みとその上に浮かぶ伊吹山
長浜西黒田地区は古くから密接に結びついていると感じる風景

今歩いてきた臥竜山沿いの西黒田地区そしてその背後に伊吹山がみえ、この地区が伊吹山と一体であること再認識　湖岸の長浜の街とでは知らなかった感覚です。
鉄の王国「近江」には随分あるいたつもりでいましたが、空白になっていた伊吹山山麓まったく抱いていた印象と違うのにびっくりです。
鉄の山伊吹山　湖北伊吹に和鉄伝承と重なる金太郎伝承　半信半疑でしたが、伝承地の長浜西黒田地区が伊吹の里・伊吹山とつながっていることそして、この臥竜山の寝そべる西黒田地区が鉄を背景に北陸から近江に勢力を伸ばし大和政権に大きな影響力を持った息長氏の存在についてもちょっとわかったような気がしました。

また、伊吹山山麓の伊吹の里　もっと山深いと思っていましたが、湖岸長浜とも密接につながった豊かな田園地であることにびっくり。
その源に豊富な伊吹山のみずの分水網にあることを知りました。
それにしても　どでかい山　伊吹山　その大きさに圧倒されたwalkです。
花の伊吹山にもう一つ古代の和鉄の興味の加わった今回のwalk
暖かくなったら、伊吹の里からゆっくり伊吹山の頂上へ歩こうと思っています。

加療中の仲間の元気な姿も見られたし、うれしい伊吹の里walkになりました。

2018. 11. 12.　臥竜山のふもと金太郎伝承の里　長浜市西黒田地区を後にして
臥竜山の山並みとその上に見る伊吹山をながめつつ

近江長浜西黒田の金太郎伝承walk　参考・一部転載させていただいた資料

1. 滋賀銀行 季刊情報文化誌「湖」2015秋号
   “金太郎”　坂田の金時は旧坂田郡の人だった?
   https://www.keibun.co.jp/saveimg/mizuumi/0000000026/pdf_sub_208_20150925103446.pdf
2. 金太郎伝承の地の黒田　長浜市西黒田　街づくりセンター　ホームページ
   http://nishikuroda.sakura.ne.jp/
3 金太郎伝承の地の黒田　金太郎の里マップ
   http://nishikuroda.sakura.ne.jp/sisekimeguri.html
4. Google Earth & Google map　street view　米原市　& 長浜市
5 .酒呑童子の出生伝説
   https://nohmask21.com/oni/densetsu02.html
6. 桃太郎伝説の吉備路walk　鬼ノ城を訪ねる　2010.1.15.　ほか
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1002kinojyo00.htm

和鉄の道･iron road by Mutsu Nakanishi

1. 湖北 伊吹山山麓 近江国 旧坂田郡に残る金太郎伝承　2018.6.1.
   旧坂田郡 長浜市　旧坂田郡 長浜市西黒田
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1806nagahamakintarou.pdf
2. 鬼の住む山 大江山 鬼の伝説 に「Iron Road」のロマンをかきたてて
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb06.pdf
3. 日本三彦山の一つ　越後 弥彦山　Walk　弥彦山に鍛治神の痕跡を探し て
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron10.pdf
4. 旧暦霜月8日(11月8日)　金山まつり・鞴まつり
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron14.pdf
5. 日本各地に残る和鉄の道の風景
   http://www.infokkkna.com/ironroad/tatara/tatara05.pdf
6. 和鉄の道からみた日本誕生前夜の北近江・若狭
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2011htm/2011iron/11iron17.pdf
7. 瀬田丘陵　源内峠製鉄遺跡　野路小野山製鉄遺跡を訪ねて
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron03.pdf

【参考】「近江の鉄」　和鉄の道掲載リスト　by Mutsu Nakanishi

古代鉄の先進地　近江の鉄　掲載記事を書き出してみました

1. 大和政権を支えた近江国の鉄　瀬田丘陵 の製鉄地帯　2002. 3.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb13.pdf
2. 2005年青春キップの旅　古代鉄の足跡を訪ねて　p12-p30　　2005. 8.
   木ノ本　古橋製鉄遺跡 &　北マキノ
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/5iron13.pdf
3. 比叡山延暦寺造営を支えた生産工房　大津市堅田　上仰木製鉄遺跡　　2006. 2.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron04.pdf
4. 瀬田丘陵　源内峠製鉄遺跡　野路小野山製鉄遺跡を訪ねて　2007. 7.
   古代官営大製鉄コンビナートに発展させ た近江の製鉄技術
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron03.pdf
5. 卑弥呼の時代からの大陸への玄関口　若 狭・北近江の「若狭街道」　　2008. 9. 1.
   大陸・朝鮮半島の鉄を求めて続く若狭・北近江の「和鉄の道」を訪ねて
   分水嶺「水坂峠」の両側　北近江「高島　熊野本」と若狭「上中町熊 川宿&脇袋 」
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/8iron09.pdf
6. 湖南　南郷の古代の製鉄遺跡を訪ねて　袴腰山を巡る　2009. 7. 30.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/9iron09.pdf
7. 古墳時代 朝鮮半島との交流玄関口「若狭」を再度訪ねる　　2011.8.30.
   脇袋古墳群など若狭の王墓からの出土品見学 & 若狭小浜港・遠敷の里 Walk
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/11iron10.pdf
8. 北近江安曇川安曇あずみ会でのプレゼンスライド　　2011. 12. 1.
   「和鉄の道Iron Road 」から見た日本誕生前夜-北近江・若狭が輝いた時代-
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/11iron17.pdf
9. 琵琶湖交通・北陸や東日本と畿内をつなぐ交通の重要な結接点 近江の彦根 2016.12..
   纏向遺跡に匹敵する大型建造物のある鉄器物流を担う拠点都市集落が出土
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/16iron16.pdf

【資料補足】

古代たたらの故郷　湖北 伊吹山山麓
たたらの古代豪族息長氏の里に眠る
「金太郎」伝承地 walk　2018.11.13.
長浜市西黒田地区（旧坂田郡西黒田村）

丘を東に越えればすぐ正面に伊吹山が姿を現す。
東西を山に挟まれた丘陵地に広がる井吹の里である。

概略 謎の多い古代豪族 息長氏 と 坂田の金時の伝承地
長浜市旧坂田郡黒田地区

古代東山道,北陸道の要衝であり,琵琶湖に朝妻港をもつ交通の拠点であった伊吹山の西麓　近江国坂田郡息吹(現,坂田郡米原町と長浜市の一部)を本拠とした古代　鉄の王国近江の大豪族。
古事記ほかの伝承によれば、古墳時代の王族 意富富杼(おほほど)王の後裔と伝えられ、息長帯日売命(神功皇后)や息長真若中比売(応神天皇妃)など息長の氏名を冠する皇妃を輩出し,大王家との姻戚関係を伝える。

息長の名義発祥の由来は、
新羅から渡来した天之日矛（あめのひぼこ）の末裔の鍛冶集団で、上古から持つ製鉄・鍛冶に関する技術から生じたとする説や本拠地の伊吹山山麓荒ぶる山「息吹」に発するといわれる。
この坂田郡天野川流域には息吹氏と関係すると考えられる5世紀末～6世紀後半の息吹古墳群がある。
また、伊吹の里の北には　敏達天皇の皇后「息長広姫」の御陵息長陵とされる村居田古墳。金太郎の里臥竜山の山裾　長浜市旧坂田郡黒田地区にも布施町の布施古墳ほかいくつかの古墳があり、この地に勢力のあった生息長氏との関係が見られる。
金太郎の出生地伝承をこんな息長氏につながる鍛冶屋の子として、
息長氏の本拠地　伊吹山西麓　臥竜山の山裾ですくすくと育ったと伝えている。

坂田の金時　酒呑童子の鬼退治伝承

「酒呑童子の出生伝説」　大江山•伊吹山•越後英彦山

酒呑童子伝説の多くは、大江山伝説の形をとっているが、
日本各地では酒呑童子の出生とかかわる伝説を残し、
それを物語化したり絵巻としているところが他にもみられる。
大江山鬼退治伝承を残す大江山も含め、
酒呑童子出生伝承を残す伊吹山•英彦山の山麓は古代鉄伝承の鉄の山。
荒ぶる鉄の山が酒呑童子の伝承を生んだともいえる

●　新潟県　越後英彦山の伝承

「御伽草子」は、酒呑童子の出生地を越後としているが、
新潟県（越後国）には、酒呑童子出生にまつわる伝説が、かなり残っている。
なかでも弥彦山系の国上山にある国上寺（分水町）には、「大江山酒呑童子」絵巻と共に、
寺の縁起が　残され、酒呑童子の生い立ちがくわしく記されている。
平安初期に越後国で生まれた彼は、手のつけられない乱暴者で、国上寺（新潟県燕市）の
稚児となった。
絶世の美少年であったため多くの女性に恋され恋文をもらったが、
貰った恋文を読みもせず全て焼いてしまったところ、
想いを伝えられなかった女性の恋心が煙となって、
彼の周りを取り囲み、その怨念によって鬼になったという。
そして鬼となった彼は、各地の山々を転々とした後に、大江山に棲みついたという。
一説では越後国の鍛冶屋の息子として産まれ、母の胎内で16ヶ月を過ごしており、
産まれながらにして歯と髪が生え揃い、すぐに歩くことができて、
5～6歳程度の言葉を話し、4歳の頃には16歳程度の知能と体力を身につけ、
気性の荒さもさることながら、
その異常な才覚により 周囲から「鬼っ子」と疎まれていたという。

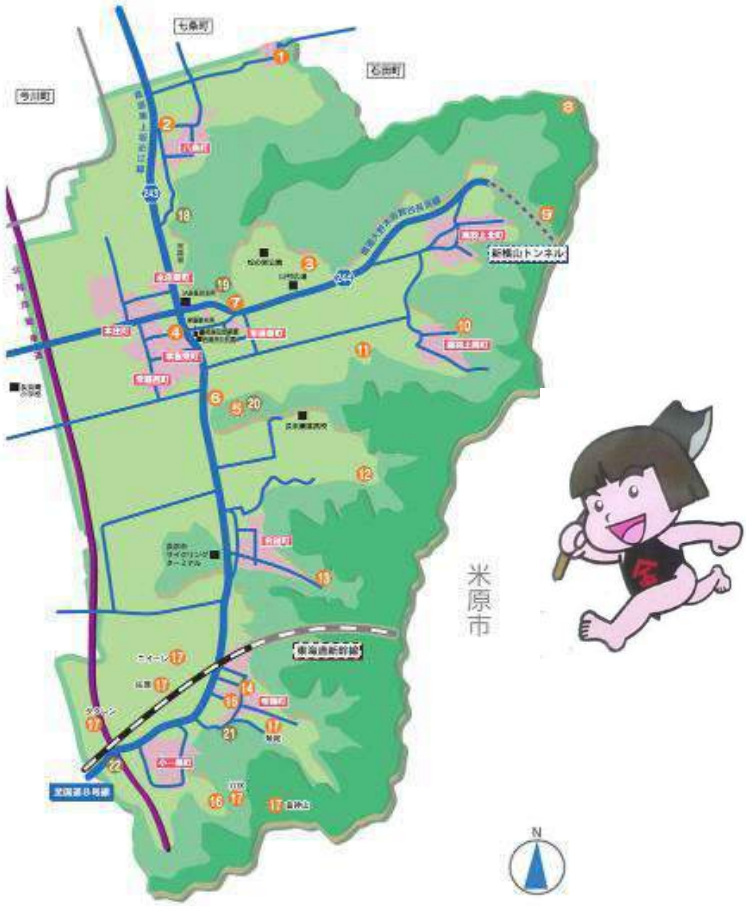
西黒田地区
旧坂田郡
金太郎伝承の
伊吹の里
米原市
伊吹山
長浜
長浜バイパス
北陸本線
草野川
姉川
三島池
天野川
土川
365
40
37
19
2
8
21
滋賀県
SHIGA
岐阜県
福井県
伊吹山
金太郎伝承の
旧坂田郡西黒田
琵琶湖
高島市
大津市
京都府
三重県
甲賀市
東近江市
近江八幡市
甲賀郡
甲良町
多賀町
犬上郡
彦根市
愛知郡
愛荘町
東浅井郡
湖北町
伊香郡
余呉町
守山市
野洲市
栗東市
湖南市
蒲生郡
竜王町
蒲生郡
日野町
垂

臥竜山西麓　長浜市旧坂田郡黒田地区

(1) 八条の古墳
(2) 八条の西小公園の不動石
(3) 三百坊遺跡
(4)立石
(5) 熊岡神社
(6) 王杉様(御杉様)
(7) 列見寺山(足柄山)
(8) 鳥羽上城跡
(9) 横山隧道
(10) 観音堂お杉さん
(11) 赤塚遺跡
(12) 左手地蔵さん
(13) 名超寺の大門跡
(14) 鍛冶屋場庄司
(15) 布勢古墳
(16) 穴伏
(17) 金太郎と鉄との 関係地名
(18) 足柄神社と「おこない」
(19) 芦柄神社と奉納相撲
(20) 熊岡神社の御輿
(21) 春日神社と幟旗
(22) 番所と地蔵さん

西黒田金太郎の里マップ

http://nishikuroda.sakura.ne.jp/sisekimeguri.html

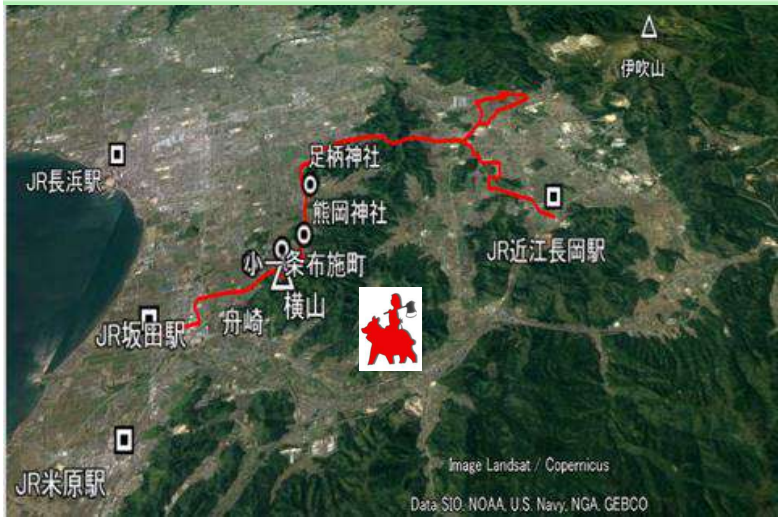


㉑ 春日神社と幟旗（布勢町）

春日神社の祭神は布勢大明神と称する。
四基の幟旗は春日神社の祭礼の時 神を迎える招代(おぎしろ) として立てたものである。
旗竿、矛、彫刻、吹き貫き、ばんばら、幟旗からなりたち、まさに伝統的文化財といっても過言ではない。
特に炎の色を表す幟旗は、布勢の地が鉄生産(タタラ)に関係ある土地柄といわれる由縁でもある。

㉒ 番所と地蔵さん（小一条町）

番所は「ばんふところ」と呼ばれ「乳母が懐」がなまったものと伝えられている。
息長家の子孫であった金太郎がこの地で乳母に育てられたという伝説がある。
この地に祀られている地蔵さんは「授乳地蔵」といわれ、お祈りをすると、母乳が授かると今も信仰を集めている。



西黒田金太郎の里マップ

臥竜山西麓　長浜市旧坂田郡黒田地区

http://nishikuroda.sakura.ne.jp/sisekimeguri.html

① 八条の古墳（八条町）

古墳と思われるところが4ヶ所あり、いずれも息長氏に関係する豪族の墓と伝えられる。
その中で仏厳寺古墳は、大きな三角錐の形をした蓋石があり「朝日さし、夕日さす此の地に金の鶏をうめ置く」という伝説がある。

② 八条の西小公園の不動石（八条町）

中央の不動石は牛の形に似ていることから、子どもたちに「牛さん」の愛称で呼ばれ、町民の憩いの場となっている。
この石には、「條里和郷」と刻されており、條里制の名残りと、聖徳太子の「和を以て貴しとなす」を町の教訓として示したものである。

③ 三百坊遺跡（本庄町）

この地には多くの寺が存在していたという法灯の地で、僧兵も多く生活していたと伝えられているが、元亀の兵乱ですべて亡び現在は地名として残るのみである。

④ 立石（常喜町）

常喜町と本庄町の境界に大小2つの石がある。立石と呼ばれるこの石は1300年の昔に出来た条理制の坂田九条と十条の境に当たるようで、北坂田・南坂田と言われるもととなっている。

⑤ 熊岡神社（常喜町）

武の神様であると言われ、春の大祭は5月3日に御神輿の渡行があり定められた道を子どもの武者行列とともに町内を一巡し親しく町民が拝し崇める。
御神輿は金銅七宝装神輿としては国宝に値すると言われている。

⑥ 王杉様(御杉様)（常喜町）

熊岡神社境内に後鳥羽上皇お手植え言われる現在枯木の老杉がある。
枯死するまで近江町長沢へ火防の符としてその枝を送られていた。
そばを通るとき「お通しやす、酒一升」と口にして急いで通る風習が残っている。

⑦ 列見寺山(足柄山）の由来（本庄町・常喜町）

源頼光が総州から京に帰る途中、足柄山で金太郎と遇い金太郎の器量、容姿に感服したという物語（前太平記）と、列見という言葉の意味が古代の文武官採用試験だったことを考えると、列見寺山は足柄山だったことを証明できはしないだろ

⑧ 鳥羽上城跡（鳥羽上町）

観音坂越えと鳥羽上山越えの2つの間道を制するための城砦で、天分7年（1538）六角定頼 率いる江南軍に対し京極高延、浅井亮政の江北軍と合戦があったとされ、城主は京極方荒尾三郎左衛門尉であった。付近の遺構はよく残っており、大蔵、堀越、丸奥等名残りの小字が多い。

⑨ 横山隧道（鳥羽上町）

鳥羽上と菅江を結び、大正12年（1923）竣工した、幅4.4m、長さ164mの煉瓦造、坑門は冠木型デザインでイギリス積み、入口には3mを超す記念碑が立てられており、多くを人力に頼った工事の困難と両村の協力態勢をうかがうことができる。

⑩ 観音堂お杉さん（鳥羽上町）

承久年間(1219～1222）後鳥羽上皇が御巡幸のおり観音堂の地に杉をお手植えになったという。「お杉さん」と称した木は老木になり台風によって倒れ、2代目が平成10年に植えられている。
観音石像も建てられ上皇の遺徳がしのばれる。

⑪ 赤塚遺跡（鳥羽上町）

赤塚山ふもとに大きな円墳があった。現在その形を見ることはできないが使われたとされる大小の石が散在する。
明治32年尾崎寺跡に移設されるまで墓地となっていた。

⑫ 左手地蔵さん（名越町）

小幡山南側に祀られている地蔵さんで、左利きが右利きに直るという言い伝えがある。
箸二膳を供え一膳を持ち帰り右手で食事をすると右利きになり、今も遠くからお参りする人もある。

⑬ 名超寺の大門跡（名越町）

横山街道から東へ山東の山室に通じる山越え道、名超寺への参道でもある所に下中上の3つの大門があったが、兵火により焼失、中門の土台石がただ一つ現存している。
横を流れる河川は後鳥羽上皇お手洗いの皮、禊川と呼ばれている。

⑭ 鍛冶屋場庄司（布勢町）

冨施寺全盛の頃、後鳥羽上皇が佐々木定綱を奉行に鍛冶番匠を従えて名剣を打たせたという。
当時鉄生産が盛んに行われると同時に鍛冶屋が多く軒を並べていた地である。

⑮ 布勢古墳（布勢町）

形は大小二個の円型で、大は直径10m余、小は5m余の円を底にして礫盛りにし回りに樹木を植え三方を囲んでいる。
祭主は布勢意富々抒王(ふせおふどおう)であるという。

⑯ 穴伏（小一条町）

穴伏(あなぶせ）とは穴を吹く、つまり踏みふいごで炉の中へ風を送り強い火をおこし鉄を生産するさまをいう。
付近は豊富な水の流れとダムも存在し台地となっている。
ここから流れ出る地下水は黄褐色の酸化鉄を含んだ金気水で鉄生産に関係があるといわれている。

⑰ 金太郎と鉄との関係地名
（布勢町・小一条町）

成長した金太郎は布勢の鍛冶屋場庄司の刀匠のもとで働き、そのたくましい体で大槌をふるっていたといわれているが、付近には鉄生産に関わる地名が多く点在している。
「タタレン」「ニイーレ」「灰原」「穴伏」「金神山」「焼尾」等である。

⑲ 芦柄神社と奉納相撲
（本庄町）

（明治初年以前は足柄神社と称した）
祭神大年の神で894年菅原道真公の勧請により建立された。
古来有名なのは秋の祭礼に行われた奉納相撲で、力自慢の若者がこぞって参加したという。
950年生まれの金太郎(坂田金時)も相撲大会に参加し、怪童ぶりを大いに発揮したと伝えられている。
特に江戸時代の横綱として人気のあった鬼面山谷五郎は、幼少の頃 本庄に滞在し、酒造りを手伝いながら相撲の手ほどきを受け、宮相撲でも誰も相手になれないほど強くなったので角界に入門したといわれる。

⑱ 足柄神社と「おこない」
（八条町）

鎌倉幕府北条家の嫡子盛房卿が諸国修行の途中七条村に立ち寄った時、八条村南谷の地に足柄明神を勧請し、草堂を営み、これに奉祀したのが足柄神社の開基といわれている。
また、光台寺はもと八条村の寺ケ谷にあったが、盛房卿は足柄明神とともに仏神二尊に給仕し賜うたという記録がある。
その後今川村に引き移し代々相続されてきた。
この様に足柄明神と光台寺の親密な関係は今も「おこない」という形で継続され、両町交互の神宿設置は他に例を見ない意義深いもので、湖北三大「おこない」の一つに数えられている。

⑳ 熊岡神社の神輿（常喜町）

本体　木造ウルシ塗
　　総高：246.0cm
　　全長：528.4cm
　　幅　：131.0cm
金具　銅・鍛造および鋳造
　　象嵌七宝、彫金、鍍金、鍍銀

鳳凰の背板に「安永十年辛丑三月吉日京東六条住錺師 村田長左衛門」の刻銘がある。
造りも豪壮で、ほとんど全面を飾金具で覆う装飾性をみせ、特に軒を受ける12本の柱すべてに七宝象嵌金具を巻き、12本の紋様が全て異なる見事な造りである。
全国御輿の中の三指に入ると評され、2003(平成15）年には、京都公立博物館に展示された。

古代たたらの故郷　湖北 伊吹山山麓
たたらの古代豪族息長氏の里に眠る
「金太郎」伝承地 walk　2018.11.13.
長浜市西黒田地区（旧坂田郡西黒田村）